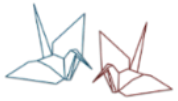




未来に向かって伸びる鶴嶺の子

# 鶴小だより 夏休み号

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校  
校長 日高 大司郎  
令和5年7月20日発行



## 正義を超えて・・・

運動会の当日、フジスーパーの駐車場にご自分のお車を停めて、運動会の参観にいらした方がありました。僕は非常に残念に感じましたし、どうしてなのだろうとも思いました。PTAのお手紙等でそれを知った保護者の皆さんの中にも、信じられないと感じた方もいらっしゃるようです。しかし、僕の中では別の思いも浮かんでいたのです。

愛着障害をもった子どもと関わったことがあります。愛着障害とは、なにかしらの理由によって、養育者との心理的な結びつきが上手く作れないことが原因で、対人関係などのトラブルが生じる状態のことを表します。その子どもも、友だちとのトラブルが絶えず、平気で暴力を振るうような様子でした。担任の目の前で、トイレトペーパーを便器に投げ入れ、何をやっているんだと叱っても絶対に認めませんでした。担任はこの子を何とかしたいと、理屈をきちんと説明したり大きな声で叱ってみたりと指導を続けましたが、全く改善しませんでした。けれど、担任がしていたことは何一つ間違っていない。正しいことを正しく伝えていただけです。そう、正しく・・・。

「マズローの欲求5段階説」といわれる理論があります。心理学者アブラハム・マズローが「人間は自己実現に向かって絶えず成長する生きものである」と仮定し、人間の欲求を5段階に理論化したものです。人間には5段階の「欲求」があり、1つ下の欲求が満たされると次の欲求を満たそうとする基本的な心理的行動を表しています。

欲求の第1段階は、「生理的欲求」です。人間が生きて行く上で必要不可欠な食べることや、眠るなどの欲求のことです。第2段階は、「安全の欲求」です。生理的欲求が満たされると、次に自分の身を守ろうとします。第3段階では、集団への帰属や愛情を求める、「所属と愛の欲求」です。第4段階は、他者から尊敬されたい、認められたいと願う欲求、承認欲求です。そして、最後は、自分の世界観・人生観に基づいて、あるべき自分になりたいと願う欲求、「自己実現の欲求」となります。

僕の出会った子どものことを考えてみてください。衣食は足りていたとしても、保護者とのつながりがもてずにいる彼は、いつも、いつでも「自分の安全」を担保しようと必死です。そういう欲求段階なのだということです。そこを飛び越えて、

上層の欲求には行きません。だから、第1段階や第2段階の欲求が満たされていない児童の行動は、他からはなかなか理解ができないのです。当たり前のことよりも、自分の安全の方が優先されてしまうからです。

この児童は、始め教室から飛び出していました。しかし、担任が「正しいことを正しく伝える」ことよりも、彼を「受け止める、彼を認める」ことを大事に最優先に対応を続けたことで、教室に戻れるようになりました。その翌年は、彼のそういった状況を理解して、始めからそういう対応したおかげで、教室の仲間と一緒にきちんと勉強できるところまで成長したのです。

僕たちは、社会の様々な出来事に対して、「正義」で語ろうとします。おかしいことは、おかしい、間違っていることは、間違っていると思うことは、おかしいことでも、変なことでもありません。ごくごく当たり前のことです。そして、大切なことも思います。しかし、その一方でお話しした子どものように、大人ではあっても、自分を守ったり、生きていったりするだけで精一杯の方が、少なからずいらっしゃるのではないかと感じているのです。冒頭書いた駐車場にまつわる件も、「よいこと」の訳がないけれど、その事実は見て取れても、その行為をした人たちの心の中がどうであるかは、残念ながら外から見ではとれないのです。

大人がそんな状況になってしまうのはきっと、社会の歪みなのだらうと思います。僕たちがもし「正義」の言葉だけしか持たないとしたら、社会は分断されていくよりほかはありません。

僕は、鶴嶺の子どもたちを健やかに育てたいと思っています。それは、同時に保護者の皆様に健やかであって欲しいという願いでもあります。保護者の皆さんの安定こそが、子どもたちを支える力だからです。残念ながら僕は、保護者の皆さんを支える術を知りません。それでも、寄り添うことはできるのではないかと。保護者のみなさんや地域の皆さんが互いにつながってくださることで、拠り所になり得るのではないかと期待もしています。「正義」を超えたところで、つながってください。そして、他者の痛みや苦しみに、少しでも思いを馳せてください。

長期休みの前にすべての保護者の皆さんと子どもたちにこの言葉を贈ります。

「どの草花にも必ず、そこで生きる理由がある。この世に咲く、意味が必ずある。必ず。」  
(朝ドラらんまんより)